

第10回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 北村 恭康

◇開催日時 2020年1月9日(木) 19時～22時

◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター多目的ホール

◇参加者 三木(都跡小)、新宮(平城小)、高良(筒井小)、大西・阿彌(飛鳥小)、樋口(平城西小)
小谷・中澤(平群北小)、河野(附属小)、今井(ソーシャル・サイエンス・ラボ)
蔵前(河合第一小)、奥平・藤原(学生)
中澤・北村(奈良教育大) 計15名

◇内容

1、第11回ユネスコスクール全国大会参加報告

大西(飛鳥小)、三木(都跡小)、河野(附属小)、より

2、学習指導案の相互検討

(1) 植物マップを作ろう(3年理科・今井晴菜・ソーシャル・サイエンス・ラボ)

- ・植物の育つ環境を調べる
- ・班ごとに校地内の植物を調べる
- ・調べる内容は ⇒ 根、茎、葉、花の形・それぞれの特徴・多くあった植物・少ない植物
- ・調べた植物を班ごとにまとめ、植物マップを作り上げる

○アドバイス

- ・植物のスケッチは難しい。
- ・写真や図鑑を利用して進めた方がよい。
- ・植物を含めて生き物としてくくり、虫と植物のつながりを考えさせてはどうか。
- ・マップを完成させた後の方が大事である。マップを作り上げることが目的ではない。それを利用して何を考えさせるかが大切では。
- ・3年生の実践であるが、生活科で考えてもよいのでは。

(2) 秋篠川千本桜を愛し、受け継ぎチャレンジ隊(5年総合・樋口先生・平城西小)

- ・秋篠川といえば、児童・保護者とも「桜」と答える。
- ・桜の世話をしていることは知っているが、誰かは分からない(児童・保護者とも)。
- ・地域のつながりが希薄である。
- ・桜祭りの時「秋篠川源流を愛し育てる会」の人たちが作っているコーナーに地域の人たちはほとんど立ち寄らない。
- ・来春の地域の絵を描くと人の姿を描いていない子供もいる。
- ・学んだことの発信方法が分からない。

○アドバイス

- ・「秋篠川源流を愛し育てる会」の人たちの桜を植えた思いをしっかりと押さえるべきでは。
- ・桜を守っているボランティアの人たちと一緒に活動をする時間を取ってみては。
- ・子どもたちは「桜」を宝物として本当に思っているのだろうか。 ⇒ 自分たちの宝物としての



当事者意識を持つようにしなければいけない。

- ・宝物には人の思いがあることに気付いているが、それだけでよいのだろうか。

子どもの意識 ⇒ 自分が桜を守る活動に関わり、受け継いでいくという行動につなげなければだめだ

- ・学んだことを発信する相手 ⇒ 「秋篠川源流を愛し育てる会」のメンバーや保護者。

「秋篠川源流を愛し育てる会」 子どもたちに 高齢化のこともあり「～してほしい」という言葉が出てくると行動化の一步になる。

保護者

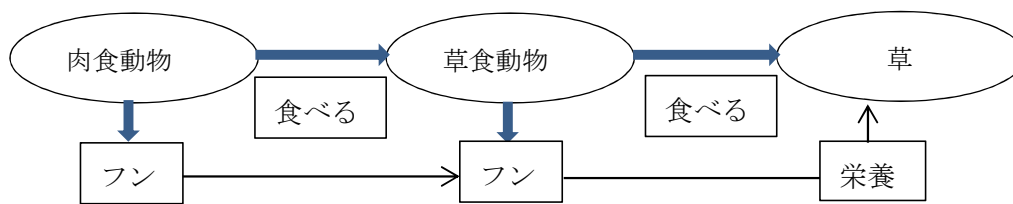
子どもたちの学びから、地域のつながりの希薄に気づくかもしれない。

(3) どうぶつはかせになろう (2年生活科・中澤先生・平群北小)

- ・天王寺動物園の獣医(市川氏)とのつながりがあった。
- ・天王寺動物園のディスカバープログラム・貸出キットの「ウンチ標本」を利用した。
- ・草食動物のフンには草が混じっていること、大きさ等、動物の種類によって違うことに気付く。
- ・遠足で天王寺動物園に行く前、2匹の動物を調べさせる。

良かった点は、よく似た動物を調べた子どもは違うところを見つけられた。

- ・フン ⇒ 関心から知的な興味へと高まる教材である。



食物連鎖 生物同士のつながり
バランスの大切さ

- ・タニシを飼育する(子どもが一の発案、教師は亀を想定していた) ⇒ 観察池の水や草を取ってきて入れる。

○アドバイス

- ・2年でESDはできるのかとあったが、指導要領には持続可能な社会の担い手の育成が記されている。
- ・食物連鎖は高学年での内容なので、そこまではする必要はない。
- ・草食動物と肉食動物の関係が分かるだけでも良いのでは。
- ・子どもの意見からタニシの飼育をすることは、興味がわき良かった。
- ・生きものに興味がわいたのではないかな。
- ・生物の多様性に気付かせるのには良い教材であった。

(4) 筒井の秘密を伝え合おう (5年総合・高良先生・筒井小)

- ・発掘調査を行った人(山川氏)と一緒に筒井城跡のフィールドワークを行う。
- ・筒井順慶顕彰会の人をゲストとして招き、順慶祭りができた経緯や祭りの概要を話してもらう。
- ・順慶祭りに小さいときは行ったが、今は行ってない。
- ・出土物に触れさせてもらう。

- ・活動の中で、子どもたちは出土品に興味を持った。

○アドバイス

- ・子どもたちに筒井城のイメージがわいたのだろうか。
- ・順慶祭りの概要だけではなく、祭りを立ち上げた顕彰会の人々の思いをもっと探れば、子どもたちも興味を持つのでは。
- ・筒井順慶を調べることもよいが、少し難しいのではないだろうか。
- ・山崎の合戦の時、順慶の取ったといわれている態度から「洞が峠を決め込む」という逸話があるが、そのようなところから入った方が、子どもにとって調べやすいのではないか。
- ・「日和見」といわれているが、なぜ引き返したのかを子どもなりに考えさせると、面白いのでは。
- ・城跡の歴史的価値を見つけさせるのは難しいと思う（宅地、水田のため城の全体像が見えない）。

※ 次回は1月22日（水）になります。学生の指導案検討となりますので、担当の先生方は学生に持ってくるように伝えてください。